



ボトルシップなど、第一次世界大戦時に習志野に収容されていたドイツ兵捕虜に関する資料を国立歴史民俗博物館で展示します

問 合 せ：社会教育課 担当者：松浦 （453）9382

150年を超える日独交流の歴史を振り返る国立歴史民俗博物館の企画展示「**ドイツと日本を結ぶもの 一日独修好 150年の歴史**」に、本市が所蔵する習志野俘虜収容所関係資料を出展することになりました。

今からおよそ100年前の第一次世界大戦中、現在の習志野市東習志野に、「習志野俘虜収容所」が設置され、大正4年（1915）9月から同9年（1920）1月まで、最大で1000人近くのドイツ兵捕虜が収容されていました。

捕虜たちは、自由を制限されましたが国際法に基づいた待遇により、所内ではオーケストラ演奏、演劇、スポーツなどの文化的活動が活発でした。

また、畜産試験場へのソーセージ製法の伝授をはじめ、捕虜による様々な技術指導、地域住民との交流も伝わっています。

今回出品するのは、捕虜が収容所内で作成し近隣住民に贈ったと伝わる「**ボトルシップ**」2点と、捕虜として収容されていたエーリッヒ・カウルが1914年ごろから1920年にかけて記した日記（「**エーリッヒ・カウルの日記**」）です。いずれも本市に寄贈されたものです。

1点目のボトルシップは、収容所の見学に来た小学校の一行に贈られたものといわれています。

2点目のボトルシップは、収容所に野菜などを納入していた青果店の人に贈られたものと考えられます。捕虜と地域住民との交流を示す貴重な資料です。

エーリッヒ・カウルの日記は、収容所でのできごとや暮らしぶり、故郷を遠く離れた心情などが、200ページ以上にわたって記されています。習志野付近で採取されたいしい稲穂なども貼付されています。

今年は**習志野俘虜収容所設置100年**にあたります。習志野とドイツとの関わりを、他の多くの貴重な資料とともに日独交流の歴史の中で振り返るまたとない機会と言えましょう。

- ・日時：平成27年7月7日（火）から9月6日（日）まで
午前9時30分から午後5時00分（入館は午後4時30分まで）
休館日：月曜日（休日の場合は翌日休館）
 - ・場所：国立歴史民俗博物館 企画展示室A・B
 - ・主催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、長崎歴史文化博物館、鳴門市（鳴門市ドイツ会館）、横浜開港資料館
 - ・料金：一般830（560）円、高校生・大学生450（250）円、小・中学生 無料
（ ）内は20名以上の団体 ※毎週土曜日は高校生入館無料
- 問い合わせ：生涯学習部社会教育課 担当 松浦 電話 047-453-9382

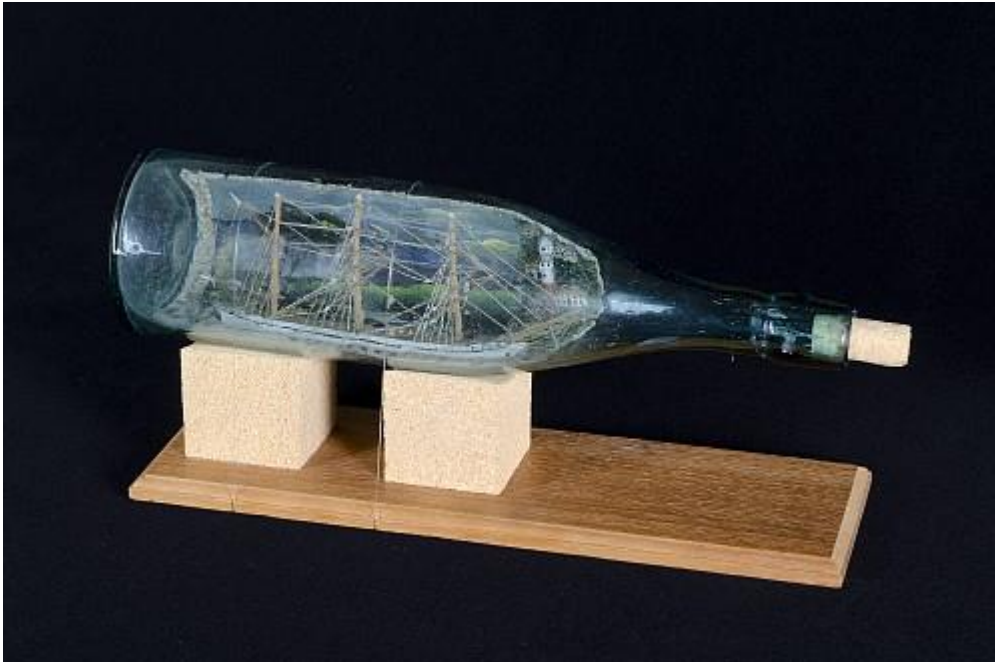


未来のために～みんながやさしさでつながるまち～

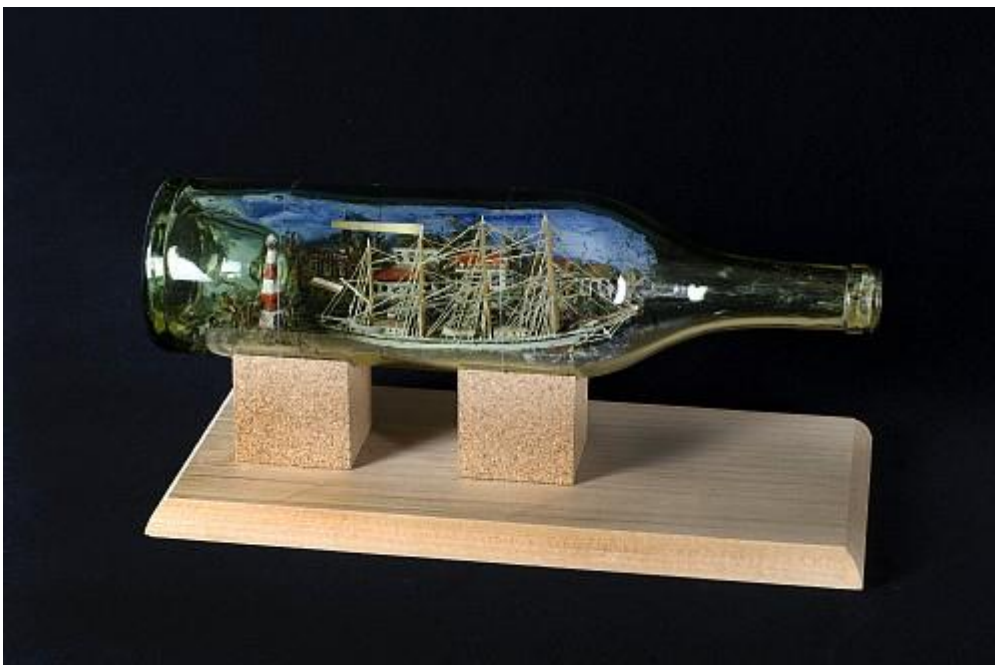
習志野市

報道発表資料
平成27年7月1日

ボトルシップ



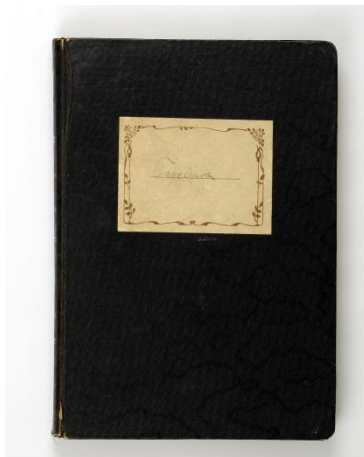
1点目のボトルシップ



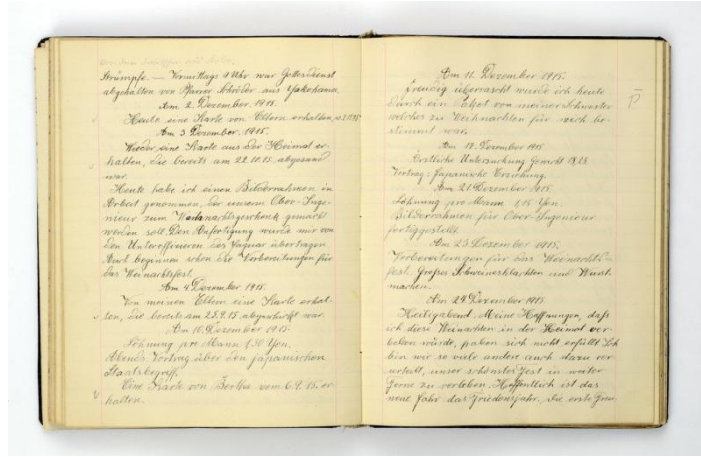
2点目のボトルシップ



エーリッヒ・カウルの日記



表紙



1915年12月ごろのページ



左はヘビの抜殻か。右は稲穂。紙片には「習志野ー日本滞在の記念の品」と記載。



左下の花とカードは、1914年11月22日、品川到着時に日本人女性が捕虜一人一人に手渡したもの。



習志野市ご当地キャラ
ナラシド♪